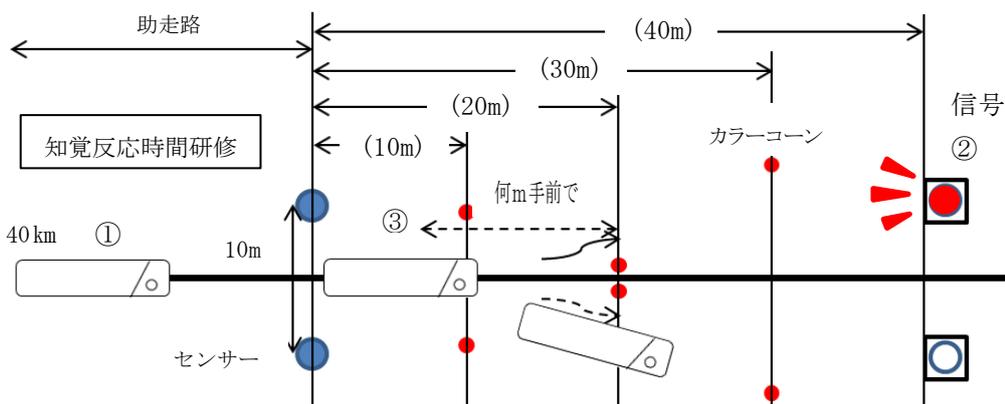
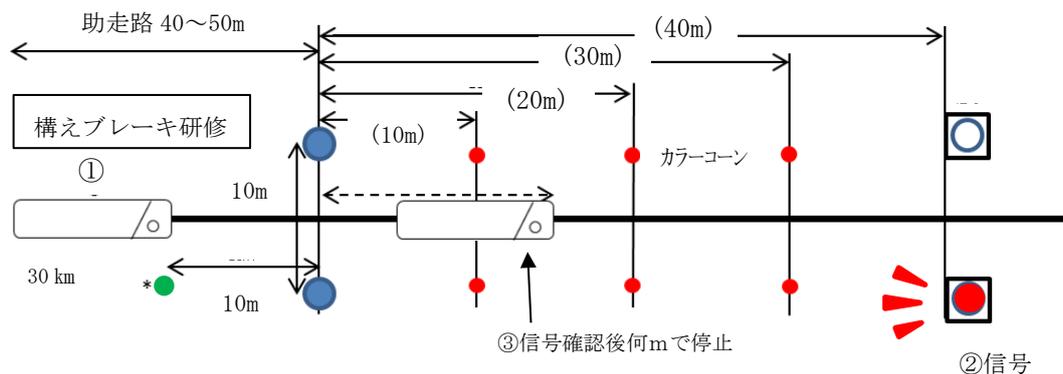


業 種	乗合バス
取組分野	教育・訓練（10）
テ ー マ	視覚認知の体験研修（営業所巡回研修）
取組の狙い	信号認知後にブレーキ操作を行うまでの空走距離がどの程度になるのか実際の車両を用いて体験および確認することで、構えブレーキの重要性を認識させる。（体験による腹落ち感をねらった取組み）
具体的内容	<p>1. 実施に至った経緯</p> <p>名古屋市交通局では、毎年事故防止にむけて様々な施策を実施しており、近年では、さらに問題意識を高めた事故防止対策に取り組んでいる。</p> <p>その中で、滋賀県東近江市にある民間研修施設「クレフィール湖東」で実施されている、実車を用いた研修の「視覚認知の体験研修」を参考に、運転士が構えブレーキの重要性を認識（腹落ち）して実施することにより、信号機が備わった交差点付近での事故防止を図るため、信号確認反応時間体験研修を実施することとした。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>平成28年3月、研修機材と研修用パワーポイント資料を作成した。</p> <p>平成28年5月から平成29年2月にかけて、自動車運転課の職員が講師となり、9営業所2分所にて、研修機材を用い実車研修を実施し、延べ149名の運行管理者が受講した。</p> <p>また、平成29年度には、研修内容を一部見直し、運転士向けの研修を実施している。平成29年8月末時点で2営業所2分所、延べ27名の運転士が受講した。</p> <p>3. 実車研修の教育内容</p> <p>【1. 信号反応時間体験研修（構えブレーキなし）】</p>  <p>①コース中央に設置したカラーコーンに向かって、40Km/hを保持したままセンサー間を通過する。</p> <p>②コース前方に設置した信号が、左右どちらかが点灯するので、点灯とは逆方向へ回避する。</p>

- ③コース中央に設置したカラーコーンの手前どのあたりで、信号の点灯を確認したかを覚えておく。
- ④研修後の解説の際、知覚反応時間が安全確保と密接な関係にあることを説明し、安全な運行を行うには、(1)知覚反応時間が長くなると空走距離が長くなる関係にあること(2)信号遵守するためには空走距離の抑制が必要であること(3)空走距離の抑制には速度を低くすることが重要であることを体験から学ぶ。

【2. 構えブレーキ体験研修】



〔体験研修 1 回目：構えブレーキなし〕

1 回目は通常の制動動作での停止距離を体験する。

- ①コース前方に設置した信号に向かって、30Km/h を保持したままセンサー間を通過する。
- ②コース前方に設置した信号が、左右どちらかが点灯するので、点灯したら制動動作をする。
- ③停止した位置を覚えておく。

〔体験研修 2 回目：構えブレーキあり〕

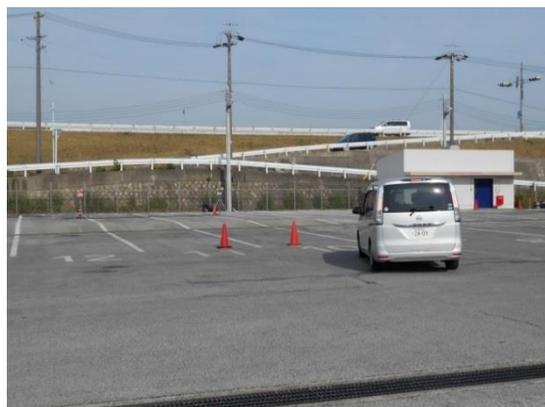
2 回目は構えブレーキでの停止距離を体験する。

- ①コース前方に設置した信号に向かって、30Km/h を保持したまま走行する。
- *センサー10m手前に設置したカラーコーン (●) で、アクセルペダルからブレーキペダルに足を置き換える。ただし、ブレーキペダルは踏み込まない。
- ②コース前方に設置した信号が、左右どちらかが点灯するので、点灯したら制動動作をする。
- ③停止した位置を覚えておく。
- ④研修後の解説

- ・1 回目及び 2 回目の停止距離を比較し解説する。
- ・交差点など危険が潜む箇所を通過する際、とっさの回避行動として日頃から構えブレーキを意識し実践すること。さらには、意識せず行えるようになることが、防衛運転につながることを解説する。

【3. 研修風景】

(コース全景)



(実車による体験研修)

(振り返り及び解説)



【4. 座学風景】



4. 研修受講者（運行管理者）に対して実施したアンケートの結果では、現場の運転士に対しても実施してほしいとの意見が多かったことから、平成 29 年度からは、各営業所で行う「巡回指導」の一環として実施している。

アンケート結果（平成 28 年度 149 名）※一部抜粋

①信号確認反応時間の実車体験研修について

良く理解できた	72%	108名
理解できた	26%	39名
普通	1%	1名
あまり理解できなかった	0%	0名
理解できなかった（遅れて参加したため）	1%	1名

②研修時間はどうか

長かった	5%	7名
やや長かった	3%	5名
ちょうどよかった	88%	132名
やや短かった	3%	4名
短かった	1%	1名

③今後の運転の参考になりますか

非常に参考になる	63%	94名
参考になる	35%	52名
わからない	1%	2名
あまり参考にならない	0%	0名
参考にならない（すでに知っていた）	1%	1名

5. 今後の予定

研修の継続や実施方法等について検討している。

取組の効果

・運転士へ指導する立場である運行管理者に「構えブレーキ」の重要性について理解が深まった。併せて、現場の運転士にも実際に体験させることで、自身の行動につながり信号機が備わった交差点内での事故等の削減が見込まれる。

事業者名

名古屋市交通局 営業本部自動車部 自動車運転課
（連絡先：052-972-3944）